

第2回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和3年1月26日（火）15時00分～16時30分
会 場	平塚市役所619会議室
出席委員	吉成伸司、江水是仁、小笠原晴壽、丸島隆雄、原田三行、渡邊彩子、 北澤浩一、府川文子、大和田マイ子 （欠席）牧野賢治
事務局	平井社会教育部長、鈴木社会教育課長、藤田中央公民館長 坂田課長代理、木村主査、市川主事
傍聴者	なし
会議要旨	

1. 議長あいさつ

緊急事態宣言が出されている中、会議の開催が危ぶまれたが、何とか会議が開催できてホッとしている。コロナ禍で暗いニュースが多いが、社会教育委員会議で話し合われたことや報告書による提言が光のあるものになればと思う。

2. 議事

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

①研修会の書面開催

当初8月26日に予定されていた研修会が12月17日へと延期となり、その後書面開催が決定した。その研修資料として「社会教育と社会教育委員の役割」を配付した。

②関東甲信越静社会教育研究大会（新潟大会）について

12月に動画配信された映像を視聴した委員の人数を確認した。

③地区研究会について

2月19日に予定されていた地区研究会（山北町）が書面開催となった。資料は届き次第、委員へ配付する。

(2) 協議テーマについて

事務局から配付した資料「コロナ禍での社会教育施設の対応と取り組み事例」に沿って、説明した。

○議長

今期の社会教育委員会議で話し合うテーマの設定をしたいと考えている。仮で設定して

いる「コロナ禍におけるこれからの社会教育のあり方（仮）」から委員のみなさんの御意見をもらいながら修正していきたいと思う。

○副議長

前回の会議で博物館や図書館などの資料の情報連携の話があったが、公民館が入って連携している事例はあるのか。

○委員

長野県阿智村で公民館主事と学芸員が協力して、村の特色ある取り組みを残そうと事業を展開しているようだ。博物館や図書館などの立地に比べ、公民館は住民の近くに立地しているので、平塚のように公民館が多くあるところでは、公民館単位で学芸員や司書の方と連携した事業を展開してみるのもいいのではないか。

○副議長

実際、地域の歴史を学ぶ会のような団体があるが、専門的な助言があると助かることもあると思うので、専門家である学芸員を公民館主事などが繋げていけるといいと思う。

○委員

地域の方、公民館、学芸員が公民館という場で連携すると三者にとってメリットがあり、そこに学校の先生が加わって、児童・生徒の学びの一環として放課後の授業ができれば、学校教育との連携も図れると思う。コロナ禍だからこそ、自分たちの住んでいるまちに目を向けて、半径数百メートルの範囲を調べてみると、普段は気づくことができなかったまちの状況に気づくことができるだろうと思う。このような気づきの中から、地域問題や社会問題に対して主体的に関わっていく仕掛けができるのでは。

○副議長

さまざまな分野の連携事例をちいき情報局を使って発信することができれば、地元だけでなく、もっと広域に発信できると思う。社会教育の範囲を超えてもっと広い分野との連携も期待できる。

○委員

平塚はちいき情報局もそうだが、コミュニティ放送局があるということも強みだと感じている。学んだ成果をきちんとアウトソーシングできる設備ができていますので、それを活かしていければ、それほど初期投資も必要とせず、学びの成果を共有することができるかと思う。

○委員

公民館主事は希望して異動してきている人ばかりでなく、5年程度で入れ替わってしまう。公民館の役割としては、色々なアイデアを持っている人達をどう繋げていくかだと思う。公民館主事に多くの役割を担わせるのはなかなか難しいように思う。

○委員

人づくりをするための種は皆が持っているので、その種を蒔きやすくする土壌も必要だと思う。人づくりをする種まきは、少しずつできる範囲で広がっているのがいいと思う。

例えば、マンションで元気曜日のような日を決めて、元気である目印として住民がハンカチをベランダに掲げるような働き掛けをすれば、一体感が生まれたり、人と人を繋げたりするきっかけになるかもしれない。

自治会とのコネクションのない若い世代を、公民館の館長や主事、運営委員などがつなぎ役としてアクションを起こしていただけると嬉しい。地域よろず相談のような感じになるかもしれないが、人と人が繋がれるところとして公民館があるといいのでは。

○副議長

公民館運営委員は各種団体から選ばれて委員になっているが、地域課題を吸い上げて、議論するようなどころまでいっていないのが実情だと思う。

コロナ禍でリモートの取り組み等があるが、実際に対面してふれあうことができなくなっている。より対面のふれあいに近い何かを考えていかないと閉塞感ばかりになってしまう。例えば、グーグルマップを使った講座などで、実際現地までに行ったように感じる取り組みなどができるかもしれない。

社会教育委員会議の提言では、勇気を出して大胆な提案をしてもいいと思う。

○委員

コロナ禍の取り組みとして、公民館の「集まらない事業」の紹介があったが、このような事業はコロナ禍のあり方として柱になる取り組みだと思う。オンラインという手法もあるが、より対面のふれあいに近いアイデアを皆で考えていければいいと思う。

○委員

コロナ禍での取り組みとして、学校ではパソコンやタブレット、ネットワーク環境の充実を進めている。子ども達は機器などの環境が整えば、操作はあまり苦にせずできるようになると思っている。コロナ禍においては、子ども達のメンタル面での繋がりを考えなくてはいけないと感じている。

なかなか話し合い活動ができない中で、事前配布資料の中にあつた岡山県のレッスン動画の配信の取り組みのように、YouTubeをうまく活用することができれば、子ども達の気

を引き付けることができると思う。例えば、公民館でのコーラスの講座を YouTube で配信することで、今まで子ども達にとって疎遠だった公民館事業が身近なものになるかもしれない。

また、コロナが終息した後もこのような動画配信を残していければ、実際の対面での繋がりと併せて、人との繋がりが持てると感じた。

○委員

ICTを活用していくことになると情報リテラシーの問題が出てくる。規制を掛けすぎると検閲にもなりかねず、自由になりすぎると受け取った側を傷付けてしまうことにもなってしまう。これから情報リテラシーの能力は読み書きそろばんのように当たり前身につけて、使いこなさなければいけない能力だと思う。また、私たち大人が責任を持って情報リテラシーの問題を子ども達に働き掛けることが大事だと感じた。

○副議長

学校で支給されるタブレットは、子ども達が家に持ち帰ることになると思うが、親も共有して母親学級や父親学級のようなところで使うことができるのか。

○委員

子ども達に支給されるタブレットは基本的に学校に置いておくもので、臨時休校となれば、持ち帰ることがあるかもしれないが、現在は基本的に持ち帰って学習する運用にはなっていない。

○委員

情報機器の使い方は、情報を発信する技術と情報を検索して得る技術があると思うが、その両方を初めに教えたりするのではなく、情報を得る技術から教えて慣らしていくことが大事だと思う。

○委員

子ども達はオンラインで友達とゲームをすることができる時代なので、タブレットやスマホには取っつきやすいのではと感じる。ゲームなどではなく、学校の先生が授業を動画配信することになれば、より興味を持って扱うようになるのかと思う。

私の住んでる地域では、高齢者が多く、スマホやパソコンを使うことができない方がいると思うので、どのようにケアしていくかが難しいと感じている。

○副議長

今、緊急事態宣言が発出されている関係で、子ども達が使う学校体育施設が利用中止に

なっていて、子ども達、特に10代の前半は運動の色々な能力を習得できる重要な時期にもかかわらず、運動ができない状況になっている。一律に学校体育施設を利用中止にするのではなく、密にならない屋外の競技は指導者などが感染症対策をした上で利用させてもよいように感じている。

テーマを絞っていく考え方もあるが、コロナをテーマに広く包括的に議論していくことでもいいと思う。

○委員

人づくりの視点は大切で、特に地域で子ども達を育てていく活動をしている個人や団体などを切り口にしていくのもいいのではないかと思う。ひらつかスタイルの提言の中でも、人づくりや人材育成が柱になっていたと思うので、人づくりを軸に話し合いができたらいいのではないか。

○委員

大学ではチャットでのやり取りが行われている。対面ではないため、本音が言いやすいという側面がある。時間がかかるかもしれないが、今チャットでやり取りしている世代が親の世代になった時に、成功体験を元に仕組みがガラッと変わると思う。

普段、対面では引っ込み思案で積極的に授業に参加できなかった学生がリモートでは堂々と自分の意見を言えるようになる事例もあるので、有効な新しい繋がり的手法であると思う。

○議長

キーワードとして、ICTの活用や施設利用、人づくりなどが出てきたが、ひらつかスタイルを軸にこれらについて話し合っていくことになるのかと思う。

○事務局

次回の会議までしばらく期間が空くので、今回出されたキーワードに関するコロナ禍での課題を各委員の皆さんに考えていただきたい。次回の会議までに事務局から照会を出すので、出された意見を集約して、次回会議前までに各委員へ送付したい。

○社会教育部長

会議の中で出てきたキーワードは、ひらつかスタイルの中にある「仕組みづくり」、「活動」、「担い手・人材」の柱に当てはまっていくのかと思う。その柱にキーワードを落とし込み、課題を抽出できたらと思う。

(3) 来年度の会議予定の確認

第3回会議日程 令和3年6月1日(火) 15時から(会場未定)

3. その他

- ・社会教育関係団体等との委託契約について

前回会議で市が委託契約している事業についても情報提供してもらいたいとの意見を受けて、社会教育関係団体等との委託契約(施設管理運営委託を除く)一覧を情報提供のため、配付した。

以 上